二〇七五年一月五日

「明けましておめでとうございます」

「今年もよろしくお願いします」

出勤してきた職員と、新年のあいさつを交わす。自宅や旅行、帰省先からも、オンラインで新年のあいさつが送られてきた。

シンジョーが校長室でメールを確認すると、「250件」と表示された。「扇っ子」で検索すると、「100件」と出た。

「子供から100件か、なんか縁起がいいな」と、シンジョーは、幸運を感じた。

「新年のあいさつをありがとう。今年も張り切って楽しくがんばりましょう。元気に勉強してくれる姿を楽しみにしています」

と、シンジョーは書いて、一斉に返信した。

一人ひとりのメッセージを読むのは、後にすることとした。

メールの中には、地域の方からのものもあった。給食のカレーが大好きな、モリモトさんからもメッセージが入っていた。

「明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。一月二十五日には、

また給食を食べに、うかがいます。」

で始まっていた。今朝配信した一月の献立をすでにチェックしていることに、シンジョーは驚くとともにうれしくなった。

モリモトさんからのメッセージは、続きがあった。

「素敵な姿を見たのでお知らせします。六年生の子が数人、近くの公園の掃除をしていました。落ち葉やゴミを拾って、遊具をきれいにふいていました。お礼を言っておいて下さい。すばらしい子が育ってますね」

シンジョーには心当たりがあった。六年百組のクラス会議で、「冬休み中に、地域のために良いことを一つする」ことが決まったのだ。何をやるかは自分で決める、やれることをやる、報告はいらない、ということも確認されていた。おそらくこのクラスの子たちが公園掃除をやってくれたのだろう。

シンジョーは、返事を書いて送信した。

「今年もよろしくお願いします。一緒にカレーを食べることを、今年も楽しみにしています。今後とも、扇っ子の素敵な姿を見たらお知らせ下さい」

メールの多くは、教育委員会や業者、近く

の会社からだった。

ある程度、メールのチェックをすると、シンジョーは本日の予定を確認した。壁面には、三つの予定が映し出された。

十時　職員会議

十一時　時間割作成

十五時　百周年打ち合わせ

職員会議は、一月～三月までの予定の確認と、学力・体力調査結果の分析である。調査結果から、いくつかの課題が判明したので、その解決策について確認する。

調査から分かった、今年の扇っ子の課題は、主に三つあった。

一　虫歯がある子が多い

二　毎日ニュースを見る子が少ない

三　親子の会話が少ない子が多い

担当の者が解決案を提案することとなっている。例えば、委員会の子が「歯磨きキャンペーンを行う」や、毎日「最近のニュース」についてのスピーチをする時間をつくる、宿題で「家の人から○○について聞いてくる」を毎週出すなどである。

時間割も、ほぼ十二月までと同じなのだが、一月に「地域の時間」を各学年二回つくることが決まった関係で、新たに作成することとなった。これは校長と副校長、時間割作成担当者三名、計五人で行う。

「地域の時間」は、ある職員からの提案で決まった。学校だけで学んでいては、なかなか地域愛が育たない。地域に出て行って、フィールドワークをする時間を作ってはどうかというものだ。この意見には、ほとんどの者が賛成した。他の授業もあるので、一月に二回行うことを、職員会議で確認した。

各学年の内容も、シンジョーのもとに届いていた。

一年生「あいさつでみんなともだち」

地域の人にあいさつをする

二年生「公園いろいろランキング」

地域の公園の特徴を調べる

三年生「車の色のトレンドは？」

車の色を調べてグラフにする

四年生「安全マップ最新完全版」

扇っ子のための安全マップを作る

五年生「食堂社員体験」

子供食堂のお手伝いをする

六年生「みんなで創ろう未来のまち」

未来のまちを考え市に提案する

内容については、各学年の教職員と実行委員の子で話し合って決めたようだ。

十五時。タテヤマさん、キタヒロシマさんと校長室にて、百周年行事の最終確認を行った。三月に行われる百周年行事でやることはほぼ決まっていた。

・五日　卒業生による扇フェス

・十日　五千人校歌斉唱＋マル秘企画

・十五日　扇小駅伝

・二十日　五十年前の学校生活体験

・三十日　記念式典

これまで何回かの話し合いをしてきたので、それぞれの内容についてほぼ細かいところまで決まっていた。ただし、三月十日に行われるマル秘企画についてはシンジョーと数人の子しか知らない。全校に行ったアンケートの中から数人の職員と実行委員の六名が決めたことである。何をやるかは、今のところ秘密にしてある。

「マル秘企画は、いつになったら教えてくれるんですか？」

キタヒロシマさんに聞かれたシンジョーは、「一ヶ月前か、一週間前か・・・。それも、子供たちが今考えているところなんです」と答えた。準備は必要ない。保護者にも地域の方にも迷惑はかけない。むしろ、喜んでもらえる自信のある企画であることを、シンジョーは二人に伝えた。

タテヤマさんからは、校歌斉唱に参加する人数が二千人を越えたことが伝えられた。当日になって健康状態などで参加できない人もいるだろうから、とりあえず百人ほどの動画を撮っておく必要があるのでは、という提案もあった。

扇小の児童、卒業生、保護者、地域の方から五百人ずつが参加する校歌斉唱、シンジョーはこの案だけはずっとやりたいと意見してきた。必ず記念に残る歌になるはずだ、そう自信があった。

仕事始めの日の用務をすべて終え、帰宅する時、シンジョーは二千人が歌っている姿を思い、笑ってしまった。そして口ずさんだ。

そがんばって負けずに勉強しよう

大好きな大好きなこの学校で